

第6回堺市中学校給食検討懇話会 議事要旨

日 時	令和2年10月1日(木)午後3時30分～午後5時00分
場 所	堺市役所 高層館12階会議室
出 席 者	委員：鎌田委員、勢戸委員、田中委員、植木委員、吉原委員、仲野委員、石山委員、中村委員、池田委員、苅野委員、八竹委員、富永委員 事務局：教育委員会事務局職員 傍聴者：3名
案 件 等	1. 開会 2. 協議事項 ① 給食の時間における食に関する指導について ② 給食の時間の設定について ③ 小中一貫した食育の推進について 3. 事務連絡 4. 閉会
資 料	(1) 次第 (2) 資料1：給食の時間における食に関する指導について (3) 資料2：給食時間の設定について (4) 資料3：小中一貫した食育の推進について (5) 資料4：学校給食・食育に関連する法令等
会 議 内 容	
<p><b>1. 開会</b></p> <p>【事務局が懇話会委員の変更を説明】 栄養教諭代表の上野芝小学校の川村委員が殿馬場中学校の富永委員に変更。</p> <p>【事務局がパブリックコメントの実施結果について説明】</p> <p><b>2. 協議事項</b></p> <p>① <u>給食の時間における食に関する指導について</u> 【資料1を基に事務局が説明】</p> <p>(鎌田座長) 中学校では新しい取組、先生方にとっては初めての経験、小学校のほうも、6年間給食当番活動を頑張っているわけですが、これからはその子たちが中学校に行って、また給食に取り組むという、小学校も中学校も両方のブリッジが要するという点では小学校にとっても新たな部分があります。初めてと名のつくものは今しっかり話し合っやる気にならないと、やら</p>	

されているということになるのが一番困るわけですので、こういった辺りでいいご意見をいただけたらと思います。本日は、まずは校長先生、保護者の方から率直なご意見を頂き、そういったご意見を踏まえ、栄養教諭の方から思う事を述べて頂き、勢戸委員、田中委員で深めて頂ければと思っています。では、まず校長先生方から、ご意見をお願いします。

(石山委員) 今日、本校の栄養教諭が、家庭科の授業で、食べ物の栄養のことで、実際に自分たちが料理をしたらどんなふうにしていくのかというような授業をしてくれていたのです。お話自体は随分前にその栄養教諭から聞いているのですが、全員が給食で同じものを食べていたら、直接「来週のこのメニューの材料はこんなよ」とか、「今日も中秋の名月で行事食ということで月見だんごです」、といったように指導がしやすい。選択制なので、食育として小学校から積み上げてきたものをつなげようとはしてくれているのですが、一旦途切れてしまっています。ですので、全員給食が始まると、小学校から途切れることなく栄養教諭も授業で、「今日食べたのはこうだよ」とか子どもたちに直接伝えられるし、子どもたちにとってもそれがいい食育になると思うので、できれば早く全員喫食を進めてもらえればと思っています。

給食指導のことについては、担任の先生の負担が増えるだろうなというのは想像がつくのですが、やはり栄養教諭を全校に配置をしていただいて、中心になってその部分を担ってもらわないと、学年や先生方になんか負担がかかってしまうと思います。小学校で、給食の配膳とか「いただきます」とかの指導をしていただいているので、そんなに違和感なく始められると思うのですが、小学校のときの指導の継続とか発展ができるようなながれをつくっていききたいなと思っています。

(中村委員) 私は、10年以上前になるのですが、大阪以外の給食のある中学校で働いていたことがあります。大阪で働いた後にそっちへ行ったものですから、最初、中学生が給食の準備をできるのかという不安が非常にありましたが、1年生から入っていきますと、小学校からやってきたことの延長という形で、私が考えているよりも非常にスムーズで、一番あたふたしていたのは担任だった私というような感じで、大きなトラブルはなかった記憶があります。ただ、現在給食がない中学校でこれを導入するということになると、導入した年度の1年生は比較的スムーズにいくのではないかなと思うのですが、1年以上経験が途切れてしまった2年生、3年生の給食指導がどうなるかというのは不安ではあります。

おそらく中学校の担任の先生が給食の指導というのは経験がない方が多いと思いますので、実験的に何か少しずつできないかとか、その辺の準

備は必要かなと思っています。

中学校で、4時間めの授業が特別教室であった場合や体育など着替えが必要な場合では、かなりの時間がかかって、昼食時間の終了間際に選択制給食を配膳室に取りに来る子がいます。小学校では、4時間めの授業など、時間割をうまくできているのですが、中学校の場合は教科担任制という点も考慮しなければいけないということを思っています。

あと、思い出してみると、食べるスピードが子どもによって全然違いますので、一斉にごちそうさまをして、給食を片付けて、昼休みというのが理想なのですが、これはなかなか難しかったような記憶があります。早く終わった子は早く遊びに行きたい、休み時間にしてほしいし、ゆっくり食べている子は給食の時間が欲しいというようなところで、少し苦勞したように記憶しています。

栄養教諭の配置というのは、私のほうからもぜひお願いしたいと思います。

(仲野委員) 私自身が一番気になるのは、食物アレルギーを有する子どもの除去食対応が中学校の先生方は大変ではないかということです。小学校でも、誤食という事例があります。教室で最初に除去食の子どもの分を配るとか、献立表で担任と該当児童と一緒に確認してから食べるとかマニュアルがありますが、誤食が起こってしまうことがあります。幸いなことに、大事に至るようなケースは今のところ聞いていないですが、中学校の先生方はそれですごく戸惑うと思います。これだけ給食文化が続いている小学校ですら発生することがあります。

ヒューマンエラーなので、どこかで起こってしまうことがあり、その都度啓発していった誤食をゼロに近づけるということと、子ども自身が自分は何を食べたらいけないかというのを理解していることが大事だと思います。中学生になってくるとその辺は小学生よりも安心になってくるのかなとは思いますが、自校調理方式ではない中で、どういうふうにできるのかなというのが率直なところ私は一番心配です。

配膳、片付けは一応小学校での経験があるのですが、中学校の先生方の意識の部分で難しいなと思うので、なおさら栄養教諭は絶対必要だと思っているところです。

(鎌田座長) 今仲野委員からお話がありましたが、中村委員のお話の中にもあったように中学校の先生方については未経験、初めて挑戦する先生方が多いという中で、栄養教諭の存在が改めて重要になるというお話は、ここにいるみんなが同意できるところです。実際に学校を任されている校長先生のお立

場からして、もっとこんなことをやってほしいとか、こういうところを悩んでいるとか、そういうことがあれば、この機会に出しておいていただいたら、後の委員の方々がそれに触れて、発言してくださると思いますので、どうですか。

(石山委員) 改めて先生方に研修となるとそれも負担になるのですが、初めて給食を指導していくわけですから、何らかの形で研修とか勉強してもらわないといけないと思うし、意識も高めてもらわないといけないので、どんな形の研修指導がいいのかなというのはすごく思っています。小学校の給食をしている様子なんか中学校の先生は見に行く機会がなかなかないので、実際にどんな様子で指導されているのか、子どもたちはどう動いているのだろうかとか、除去食のことも含めてどのタイミングで何をどうしているのかというのを実際に見に行かせてもらうということが大事かなと思っています。

(中村委員) 私は、小学校の先生から、栄養教諭が配置されていない学校の除去食対応で、トラブルが起こると担任しかいないというようなことを聞いていますので、やっぱりそちらのほうが気になります。栄養教諭が配置されたとして、1人でどこまで対応できるのかも、学校規模にもよるのでしょうか非常に心配しています。

(鎌田座長) 先生を増やしてほしい、人数を増やしてほしいというお声を出していただいていたのですが、例えば周りの校長先生方の中から、せめてスタートして数カ月でも加配してほしいという声が出ていることはないですか。

(中村委員) 今は、学校の教職員を配置してもらって、たらないような状況ですので、それは毎年のように委員会には要望させていただいております。

(鎌田座長) ここは本当に大事なところですからね。  
それでは、PTAのほうから、保護者のお立場でご意見をいただけたらと思います。

(植木委員) 今いろいろお話を聞かせていただきまして、中学校の時間割はあまり把握していなかったのですが、給食時間の設定というのを見ると、お昼休憩は40分ぐらいですか、本当に短い時間の中で、配膳準備、食べた後の片付けまで実際できるのかなと疑問に思うところです。先ほど中村委員が言われたみたいに、特別教室での授業や、体育などでさらに遅れるということになると、その時間が確保できるのかなと思います。食べる時間は人そ

れぞれで、速い子はいいにしても、遅い子に関しては常に追われながら食べ続けるといことで、逆にいいのかなと気にもなってきます。その辺の時間の配分は、中学校の場合授業時間も長いですし、授業の内容も多いので、どう確保するのかというのはすごく問題になってくるのかなと思いました。

それに対して子どもたちの学力をどこまで担保できるのか。栄養教諭について、役割の中で食育についての教育効果というのがありますが、その時間で本当に担保できるのかなというのは疑問に思うところです。1人で足りるのかなというのも思いました。いろいろ指導していただいた内容について、実際それをどう評価していくのか。ほかの教科のようにテストみたいなのがあればいいんですが、食育に関してはどう評価していくのか、中学校の内申とかに関与していくのか、もし関わってくるのであれば、保護者としてもすごく気になるところではあります。それが教育としてちゃんと担保できるのであればいいと思うのですが、それができないのであれば、栄養教諭をかなりの人数確保しなければいけないのではないかという不安も少し出てきます。

保護者としては、中学校の生活はそのまま高校につながっていき、教育の内容が、今ただでさえ増えてきていますので、増えてくれば増えてくるほど子どもたちにとってどれだけの負担になるのか、それが子どもたちの中でちゃんと理解できるのか、増やし過ぎると負担にしかならないですし、その辺をうまくバランスをとっていただければなと思います。

(吉原委員) 給食の時間における食に関する指導についてという資料をぱっと見た感想なのですが、日々の指導は担任が担うと書いているのですが、これも現場の先生なのかというのが正直な気持ちです。小学校では、今プログラミング教室をやって、パソコンが得意な先生はいいのですが、年配の先生にとっては難しい場合もあり、管理職側と現場の先生とのあつれきみたいなものがそれにもあったと思います。中学校の先生は、小学校の先生と違って専門を持ってやっていらっしゃるの、これも現場に投げるのかというのが率直な感想です。

2つめは、曖昧だなという感想です。給食時間において日々の指導を担任が担って、栄養教諭が赴いて直接指導したり資料を提供すると書いてあります。1学年2クラスぐらいの規模の中学校ならいいのですが、大規模校では短時間で、ぱっと終わるのであれば、果たして栄養教諭の存在する意味があるのかと思います。日々の指導は担任が担うというのは、負荷がまた高まるということで、そういったところのケアと、もう1つは、栄養教諭の役割の『赴いて』というところがすごく曖昧な感じがして個人的にすごくひっかかっています。

私の思う中学校生活というのは、小中高と保護者として関わっていて、中学生時代、親として一番センシティブというか、気になるのがいじめの問題や不登校の問題です。だから、給食において、それがいじめや不登校の遠因になってしまうのであれば、そういうシステムは正直作りたくないなと思います。担任の先生も、先ほど校長先生方もおっしゃっていましたが、指導されたことがない先生がほとんどだと思います。食べ物を持って遊ぶ子どももきつといるでしょうし、栄養教諭が行って、話を聞くが、去った後に何かが起こる可能性もあるので、いい案はないのですが、もう少し掘り下げたシステムが見当たらないかなと思います。ネガティブな話で申し訳ないですが、それが率直な意見です。

(鎌田座長)      ありがとうございます。

それでは、今出ているような意見を受けて、栄養教諭の委員の方から本音のところを、もっとこの部分はこうしたら前に進むのではないかなというふうなことも含めてお願いしたいのですが、どなたからでもどうぞ。

(池田委員)      給食指導についてご心配なご意見が出ていたように思います。子どもたちは小学校6年間給食の活動を行って卒業していますので、1年空白があっても2年空白があっても、おそらくやってくれるだろうと思います。先生方については、石山委員もおっしゃっていましたように、中学校の先生方が、一度小学校に見にきてくださったらいいと思います。百聞は一見にしかずで、実際担任の先生がどのように動いているのかを見ていただいたら、不安に思われていることも解消する部分が多いと思います。

この時程で短いとおっしゃっていた給食時間、休憩を含めての40分というのは、小学校でも休憩は別で40分、45分で、小学校1年生でもそれでみんなやっています。中学生であれば、もう少し要領よくできるでしょうし、授業時間と同じ時間ぐらいで小学生の子もやっていますので、この時間については大丈夫だと私は思います。

あと、中学校全校に栄養教諭を置いてほしいと、みなさんが思ってください、私たち栄養教諭を必要とさせていただくことは、すごくありがたいと思うのですが、実際今小学校でも栄養教諭は全校には配置されておられません。でも、配置されている学校も、未配置の学校もなるべく同じような指導ができるように、献立カレンダーを私たちが作って、全校に配布し、どの学校でも同じように給食指導ができるようにしています。配膳の指導とか、その日の給食で一番伝えたいこと、こういう思いを込めて献立をたてているということを伝えるための資料を作っています。各担任の先生がそれを使って同じ指導を一斉にできるように、全校に配付しています。栄養教諭が全校にいることを、もちろん私も望みますが、いないから何も

できていないということではなくて、配置されていなくても全校に同一の資料を配るなりして指導を行き渡らせています。今年は、学校が臨時休校になって給食も途絶えていました。新しい生活様式の中で給食をやっていますが、それによって今までと給食指導を変えたところがあります。そういった給食指導の細かいところで、どう変えたら、みんなが安全にできるかとかを提案・集約することを栄養教諭がやっています。実際教室での指導は、その資料を基にして担任の先生たちが実践しています。

栄養教諭が教室に行って、1クラスずつ給食指導するというのは現実不可能ですし、先生たちは指導のプロですので、資料があれば、それに沿って安全な給食指導を、今、小学校ではしてくれていると思っていますので、中学校の先生方もそういったルールや、もともになる指導案があれば、それに沿ってどのクラスも指導してくださると私は思います。

(八竹委員) 今、池田委員がおっしゃっていたコロナ禍の後の新しい生活様式という点で、休校の後、みんな初めてのことをしたのですが、それを見て私は少し安心したというか、結構みんな柔軟性があると思いました。きちんとしたマニュアルみたいなものがあるって、それをしっかり現場に示せば、先生方も生徒たちもちゃんと動けるということがわかりました。それまでは、私も全員給食が始まったときにどのように現場に示していったらいいのかと不安に思っていたのですが、養護教諭とか生徒指導の先生がルールを説明したら、きちんとそのようにみんな動けるのです。それを見たので、大丈夫じゃないかなと少し楽観的になりました。

それと、小学校に実際の給食を見に行ったらいいのではないかというお話なのですが、私は小学校の給食しか経験がなかったので、今の子どもたちはどうやっているのかわからないので不安に思っていた部分がありました。けれど、先日中学校の栄養教諭と教育委員会の方たちと一緒に大阪狭山市の中学校の給食を実施しているところを見に行かせていただいて、それを見て安心したというか、スムーズにやっているところを見せていただいて、百聞は一見にしかずで、見るということが大事だと思いました。ビデオで見るとかでもいいので、始まるまでにぜひとも小学校の給食の様子を見てもらえたら安心してもらえるのかなと思っています。

あと、食物アレルギーを有する子どもの除去食についてなんですが、実際中学校の現場の先生がすごく不安に思っているというのを私も感じています。というのも、昨年度から中学校にきまして、すごくひどいアレルギーの生徒で、ふだんは選択制給食だから給食を注文しておらず心配ないのですが、宿泊訓練の時にどうしたらいいのか心配だということで、私も付き添いで行きました。行ってみたら、小学生と中学生とは全然違うと思いました。すごくしっかりしている。自分のことをよくわかっているので、

一応、補助的に、私はそばで見えていましたが、「自分の除去食はどれですか」と聞きにいけたり、自立できているというか、全部自分でできる。だから、小学校ほど事故は起こらないのではないかと考えています。

それと、選択制の給食ですが、この7月から卵のアレルギーを有する生徒が給食を申し込むことになりました。保護者の方に電話をして、「返金もないし、今、除去食の対応をしていないがいいですか」と言ったら、「食べたいと言っています」ということで、そうなったら、自分で卵の入っている給食を食べないようにする必要があります。担任の先生も一応気にはかけていますが、今の段階でマニュアルがきちりあるわけでもないのにそれでも本人が自分できちんと管理できている。小学校とは全然違うなど感じています。

ただ、小学校のようなマニュアルはしっかり作っていないといけないと思っています。マニュアルが大事だと思います。給食指導についても、全校に配置されていないわけだから、私たちは、スタートにあたって、それを見たらできるというきちりしたマニュアルを教育委員会の方たちと一緒に作って学校現場に示すということが大事なことだと思っています。

食に関する指導に関しては、みんな平等にするには、全校テレビの画面にその日の給食のことを映し出すということを私は今考えています。私は、家庭科の食領域で授業に入らせてもらっているのですが、家庭科の先生とも、教材研究をしているときに話をしているのですが、中学生だったら、家庭科の授業の中でエネルギー何キロカロリーとか、栄養素のこともすごく詳しく勉強しているので、その日の給食は何キロカロリーですという表示と今日はカルシウム強化の給食ですとか、6つの食品群を学んでいるので、クイズでこれは何群でしょうとか、毎日そういうので食育ができると言っています。

今日も午前中、授業に入って、「1食分のエネルギーは大体800から850ぐらいですよ」ということを伝え、800という数字が実際の食事ですどれぐらいなのかは給食を見たらわかるよということで、たまたま3分の1ぐらいの子が選択制給食を食べているクラスだったので、お弁当の人は給食をちらっと見てくださいというような話をしてきました。全校への栄養教諭の配置はなかなか難しいと思うので、配置されていない学校も損をしないようなお昼の時間の指導を考えていきたいと思っています。

(富永委員) 先ほど石山委員も言われたように、今日はお月見献立でした。中学校にも小学校と同様に献立一口メモという、1日ごとに今日はこんな献立ですというのがあるのですが、今全員が給食を喫食していないので、今日は行事食の『お月見献立』でおだんごが入った汁物を給食で提供していたとい

うのを、給食を申し込んでいる子どもたちにしか伝えられないのが寂しいところだと思っています。子どもたちはふだんだったら今日がお月見だということも通り過ぎてしまうように今無季化しているのですが、行事に立ち止まって今日はこんな日で、だからこれを食べるのだなというのを、学校給食を通して学んでいただく。また、担任の先生方も、忙しさの余り今日が何の日なのかとかわからないところもあるのですが、日々の献立を見ていただくことで、「今日はお月見なんだね」、「今日だったら月がきれいに見えるよね」といった季節感を給食から学んで子どもたちと共有していただく。

指導という言葉があって、担任の先生方は不安に思われると思いますが、子どもたちと同じものを一緒に食べて、食べられなかったものが食べられるようになるとか、一緒に時間を共有することで、食に関するいろんな会話をすることで人間関係を深めるとか、給食にはすごく大きな意義があると思います。ただ、食べ方とかマナーとかの指導でなく、食事を楽しむ。子どもたちも、今独りで食べている子どもたちがたくさんいるので、みんなで食べるということの大切さを学んでいく。先生方も、そう恐れずに楽しんでいただくというか、子どもたちと一緒に食べていただく時間にさせていただいたらいいのかなと思います。

私、他市で中学校給食を経験させていただいていますが、中学校の場合、教科担任制ということで、担任の先生がクラスにすぐに行けない場合がとても多いので、副担の先生や学年の先生など担任外の先生方で子どもたちの配膳を見たり、廊下に立って給食を運ぶ様子を見ていただくなどのことをしていました。

食べるスピードが違うということでしたが、実は小学校も食べるスピードがかなり違っております。でも、いただきますとごちそうさまはクラスみんなでするのが望ましいと思うので、本当だったら遊びにいきたくか思ってしまうのですが、お友達を待つとか、一緒にごちそうさまをするとか、ある程度時間を区切ってしていけば大丈夫なのかなと思います。

あと、アレルギー対応が一番不安に思われるところと思いますが、今堺市は小学校でのマニュアルがしっかりしておりますので、小学校と中学校が連携して、小学校からの情報を共有させていただくとかマニュアルを作っていく。中学生は、先ほども言われていましたが、自立に向けて自分で管理ができるようになってきておりますので、中学生が見やすい、分かりやすい除去食用の献立表にしていくなど、工夫をすることで対応していけたらいいかなと考えます。

(苅野委員) 食に関する指導について、こんなふう文章にしてみると、担任の先生がすごく負担に思われるのは仕方がないと思いました。ただ、小学校で

やっていますので、どんなふうに自分たちが気持ちよく食べられるかを体験済み的小朋友たちだと捉えてもらえたらいいかなと思います。

また、教師の食に対する姿勢が問われるといいますか、私も全て手作りでというわけではありませんが、自分のことを大事にする子は食べることを大事にするということで、評価、勉強云々の前に生きる力です。そこに人間性が出ます。年に1回しか実施していない『お月見献立』を見て、担任の先生が季節や行事に触れることができるようになってほしいと思います。大げさに考えるのではなく、「先生も子どもの頃これ嫌いやったけど、今は好き」という、そんな話一つだけでも、子どもはそのおかげに興味を持つ。だから、人間性と子どもたちとの関係性、こういうのを食べて元気に育ってほしい、もちろん発達段階は小学校と中学校では違いますが、そういう気持ちを持って給食の時間を過ごしてほしいなと思います。それのお手伝いを具体的にどういう形でしていくかが私たち、栄養教諭の仕事だなと思っています。

先ほどから言われているように、栄養教諭が配置されていても食物アレルギーの除去食の誤食等の事例は起こることがあります。ですので、仕組みの見直しも必要かなということで、小学校と中学校を合わせる必要があるのかを含めて検討しています。マニュアルがあっても、最後はやっぱり担任の先生の確認が必要となります。調理場ではきちんと対応をして、お知らせもしているのですが、最後の最後で確認ミスが出る事もあります。それは子ども自身も理解が必要です。自分が食べてはいけないものに関して、意識がまだ十分でないところもあります。それと、そこまで重篤な症状ではない子どもたちまで一律の対応をしているということが問題なのかなと思います。具体的にどうしたらいいかというのは私もわからないのですが、食物アレルギーの除去食の誤食については、中学生は割と自己管理ができるのではないかなと思っています。

評価とか曖昧というところは、確かにと思う部分はあります。食育は、成績表のようには出ませんが、大人になるためには食育は絶対必要なことだと私たちは信じて、そういう立場で仕事をさせてもらっています。ただ、給食を通じて教科が深まるということは絶対あると思います。例えば、今月だったら、お月見もありますが、3年生で「すがたをかえる大豆」という題材があって、10月終わりから11月に取り組むので、この時期は給食に大豆製品を多く入れているのです。大豆製品がここにもある、ここにもあるというふうに教科で使っていただけるような献立を考えたりして、子どもたちがうれしそうに、話をしているというのを聞くと、成績表の点数としては出ないにしても、教科への興味、関心が深まっているということのお手伝いはできていると思っています。

最後に、不登校とか、小学校でもあるのですが、給食が原因でというこ

とがゼロではないかもしれませんが、給食をきっかけにわかることもあると思います。嫌悪学習、給食を絶対食べなさいという指導はやっていないので、食べられる量だけ自分で決めて食べるようにし、それでも嫌というのは、給食が原因なのかな？と思います。それ以外に隠れているところがあって、サインとして出しているという捉えもあると思います。一律同じ量、同じ味、同じ見ための食事をするということは、子どもたちにとっては押しつけられているという部分もあるのですが、学校給食とはある面そういうものなので、給食でサインを出す、それはまた深く個別の対応が必要なかなと思います。小学校でも実際そういうことはたくさんあるので、何かできることはないかなということで考えています。

(鎌田座長)      ありがとうございます。

それでは、勢戸委員、田中委員、どちらの先生からでも結構です。ご意見をいただけたらと思います。

(勢戸委員)      校長先生やP T Aの方の不安はよくわかるのですが、少しきつい言い方をすると、食育指導は20年ぐらい前からやることになっているわけです。堺市はたまたま中学校で給食がなかったからやっていないだけで、給食がないからやらなくていいとはなっていないはずです。本来は、弁当を持ってきていてもやらないといけないところをやっていなかっただけなのです。不安であるというのはすぐわかる。ただ、この会はこういう形で堺市の中学校の給食をやってほしいということを提案する会だと思うので、不安を解消するためにどうするかが必要だと思います。栄養教諭が全校に配置されたら不安の解消になりますかというところで、ここにもありますように担任の先生が必ずやるわけで、いくら栄養教諭を増やしたからといって、担任の先生がやらなくていいというわけではないので、担任の先生が食育指導をできるようにするにはどうしたらいいかを校長先生たちが考えてもらわないと進まない話になると思います。

栄養教諭は、担任の先生が食育指導するのにどうしたらいいのかを教える先生だという捉え方をしてもらおうと、全校に1人ずつなんていうこともなくなるだろうし、例えば退職された栄養教諭を、そのときだけスポットで雇い入れてやってもらうとか、いろんな方法があると思うので、不安よりも、どうやってその不安を解消していくかを先生たちが考えていただけたらなと思います。

給食指導における小学校からのブランクについて、確かにそこが一番心配で、まず堺市の食育のゴールを明らかにしておいて、始まったときには、中学校1年生は小学校から来ているからいいですけど、中学校2年生は1年あいている、中学校3年生は2年あいているわけですから、中学校3年

生、中学校2年生にはどういう指導をするか。これで3年たったら、小学校から一貫教育で、一貫の食育指導になるわけですから、そこに向けたロードマップか何かを栄養教諭と一緒に作っていけば、今言っている不安というのは解消できると思います。きっちりしたマニュアルがあればコロナの対応もできるように、食育の指導、あるいはどうやって講義をやっていくかというのも、きっちりとしたマニュアルがあれば、みんなできると思うので、そのあたり協力し合って作っていくという形で、中学校給食を実現させればいいと思います。

(田中委員) 校長先生、保護者の皆さんからいろんな不安なことをお聞きしたのですが、その大部分は栄養教諭の方が大丈夫ですよというニュアンスのお答えをさせていただいて、私もお聞きしていて、これは大丈夫だなと思いました。けれど栄養教諭が少し不安だなと思っていることはあるわけで、それはやはり除去食の問題、アレルギー対応だと思います。これだけは大丈夫だよとは言いきれないところがありますので、そのところは非常に力を入れてやっていただきたい。ヒューマンエラーが出るということですが、それを出さずにいける方法を何とか考えていきたいと思います。

不登校の話も少し心配になったのですが、食事が原因ではない方向ですよというようなお話をいただきましたので、これは大丈夫と思います。

私、保育所とかを回ったりしているのですが、保育所、こども園で、このごろ栄養士をよく雇うようになりました。保育所は栄養士を雇うことは必須の規程は何もございません。調理従事者のみで実施しているのが大部分ですが、このごろ栄養士、管理栄養士を雇うようになったので、「なぜですか」と園長さんに聞くと、アレルギーが怖く、私たちだけではできないということです。もちろん、栄養全般を担当するのが栄養教諭なのですが、特に問題になるアレルギーを中心にいい案を考えていかねばならないと思います。

私、病院に30年ほどいたのですが、アレルギーの食事の事故は残念ながら皆無ではありません。忙し過ぎるというのがヒューマンエラーの大きな原因の一つだと思います。ですから、忙し過ぎても大丈夫なようなシステムを栄養教諭の方、校長先生等も入って考えていただかないといけないのですが、生徒本人が見つけてくれるのが一番ありがたいです。ですから、生徒自身に十分な教育をするのがすごく大事だと思います。本人に教育をしていただくと、ヒューマンエラーがあったにしても発見してくれます。私、今お聞きした中で、アレルギーだけしっかりすれば、作るほうはセンターで、なおかつ設計を見ていると、アレルギーの除去食は別の部屋で作るという形ですから、コンタミネーションが発生する可能性はまずない、ゼロということになりますので、あとは最後のところだと思います。その辺

をうまくクリアして、ヒューマンエラーも皆無になるような形を考えていただきたいと思います。

それから、先生方が食育するというのは非常にしんどいことだと思います。しかし、栄養教諭は、子どもたちと一緒に覚えていってくれるような形で指導してくれたらいいのですよ、リーフレットは私たちが作りますよとおっしゃってしまして、食育の本を1冊渡されて、これを教えなさいというわけではないということです、自分も一緒に覚えていこうというような形でやられたらいいのかなと思います。

あと、食のマナーは、大人になったら必要になるマナーとして大人が子どもに教えるということですから、特別に食育というほどのものでもないもので、きっちりしたマナーとして教えていただければいいかなと思います。先生方が忙しいのは重々わかっているのですが、そういう軽い気持ちで、「一緒に覚えよな」、「今日はこれを覚えよな」というような形の食育をしていただいて、無理な時は、SOSを発信したらいいと思います。

それから、校長先生方は全校に栄養教諭をとおっしゃっていただけていて、ありがたいです。これでも、大阪、北海道は栄養教諭が全国でもトップクラスで多いです。よその府県はもっと少ないのですが、さらに全校に置いてくれという校長先生の話はありがたいです。健康な子どもさんを育てていただいて、堺市がより繁栄するようにしたいと思いますので、校長先生方の全校に配置というのは、くじけず訴え続けていただければ、1人でも2人でもそういう健康な子どもが増えますので、よろしくお願ひしたいと思います。栄養教諭の方が最後は一踏ん張りやっていたかかないと仕方がないので、今まで学んだことを全て出すつもりで、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

(鎌田座長)

皆さん、ありがとうございます。限られた時間ですが、今日もまたいい意見をいっぱい出していただきました。栄養教諭の配置に関しては、とにかく1人でも多くの栄養教諭を置くことが、子どもたちの力になり、先生方、学校の力になるというのは、今日の議論を聞いていても分かるのではないかと思います。

マニュアルのほうも、ぜひ良いマニュアル、活用しやすい、されやすいマニュアルを作っていただきたいです。研修に関しては、百聞は一見にしかずという八竹委員の言葉がありましたが、学校の先生も分からないことはできないです。分かっていないといけない、イメージできないといけないわけで、そういうことが実現できるような研修を、どんな状態の学校であつても保証できるような手を打っていただきたいなと思います。しかし、給食開始の様々な手は打つても、最終的には、苅野委員がおっしゃいましたよね。教師の食に対する姿勢が問われると。この場合、職業の『職』

も入っていると思います。どういうことかということ、学校と先生方の構えを作るということに堺市は全力を挙げて取り組んだほうがいいということです。実際に実施してみると、でこぼこは出ます。栄養教諭さんが同じように質の高い指導をされても、成果もでこぼこです。私はどこで変わると思っているかということ、その1つは、学習者理解です。桃山学院教育大学で学習者理解といたら、学習者理解ビギナーの学生は、私の授業を受けた学生は皆「司（つかさ）」と言います。『つ』はつらさのつ、『か』は悲しさのか、『さ』は寂しさのさ、子どもたちを司（つかさ）どっているのだから、子どもたちの『つ・か・さ』がわからないでどうするのだという話です。

このつらさ、悲しさ、寂しさがわからない先生がもし担任だったら、給食がいじめの遠因になるかもしれない。遅いということがいじめられる原因になるかもしれない。でも、そういったことをふだんから大事にして、多様性をお互い認め合える、形の上の見えやすい平等ではなくて、本質的に困っていたらお互いさまで、みんな支えてほしいよねという、そういう物の見方がちゃんとできているクラスは支え合えますよ。つまり、クラスをあずかっている学校や先生方が学習者理解と課題に対してどれだけ前向きなのか、そうでないのかといったことによって、でこぼこが生まれると思います。ここの点をいい構えにすることをよく考えて、準備してやらないと、そこの構えの弱い先生方が一気に追い詰められかねない。子どもたちも迷惑します。そうなってはいけないわけです。

どういうことが言いたいかということ、これはピンチじゃない、チャンスだということです。この給食を通して、学校と先生方がいま一度前向きに学習者理解を深めて、前向きに自分たちのクラスで、お互い支え合い、お互いの『つ・か・さ』が分かり合えるようなクラスを作っていくにはどうしたらいいのか。学校の中で相互に支え合いながら、そして堺市として支え合いながら、要するにチーム学校にしていけるか。ここのところの闘いが生命線を分けると私は思います。だから、これは育つチャンスでもあると思います。そういう点では、八竹委員が「みんなちゃんと動けますよ」とおっしゃってくれましたし、富永委員は、「恐れず楽しんでください」とおっしゃいました。給食を一緒に食べたら、そうでない時よりも子どものことをより一層理解できる。学習者理解の深い先生は非常に楽しい時間になるでしょう。また、「既に子どもたちは、小学校で指導を受けて習得したので大丈夫」という苅野委員の言葉もありました。こういう前向きさは、ピンチの中にチャンスを見つけようとしている人にしか授からないと思います。「ピンチはピンチや」と言っている人にはこういう前向きさは出てこないのではないですかね。先生がどういう物の見方を持っているかが、子どもたちの物の見方になる。ここのところが試される、こんないい

挑戦の場はないと思います。ただし、子どもたちも挑戦だということです。だから、気持ちよく挑戦しよう、大きな夢を持って挑戦しよう、大きな意志を持って挑戦しようという盛り上がりをぜひ作っていただきたいなどお話を聞きながら考えておりました。

とりあえず1つめ、ご苦労さまでございました。

それでは、協議事項2つめ、給食の時間の設定についてに移ります。まず、事務局から説明をお願いします。

## ② 給食の時間の設定について

### 【資料2を基に事務局が説明】

(事務局) 近隣市のことを聞いたので、補足で説明させていただきます。  
調理方式に関わらず、給食の時間は30分から40分に設定している市が多いようです。

(鎌田座長) それでは、ご意見等ありましたら、挙手をお願いします。

(中村委員) 質問ですが、他市の給食時間が30分から40分というのは、給食の準備から終わるまでが30分から40分なのですか。

(事務局) 給食をとりに行つて、配膳をして、給食を食べて、返却するまでの一連の時間帯を30分から40分で設定しているということです。

(中村委員) 小学校と違うのは、中学校は授業時間が50分で5分長いことを考えると、6時間授業があると30分長いのですね。だから、給食の時間がそれだけあるということは、昼休みはほとんどないことになると思います。

(鎌田座長) 昼休みは、他市では何分くらいあるのですか。

(事務局) 給食時間とは別に、20分から30分くらい休憩時間を設定しています。

(鎌田座長) そうすると、終礼の時間がぐっと後ろに下がっていますか。それプラス30分くらい遅い感じですかね。

(事務局) 20分くらいは遅いと思います。

(鎌田座長) 例えば、堺市が3時35分だとすれば、3時55分ぐらいで今展開されているという感じですか。

(事務局) そうです。給食時間を設定して、休憩時間も20分程度とられているということです。

(鎌田座長) 堺市でも、休み時間と配膳から片付けまでの時間を仮に30分とれば、見通しとしたら、終礼の時間が同じように30分ぐらい後ろに下がるという感じですかね。

(石山委員) 今勤務している学校はこれとほぼ同じ時間です。昼食の時間も15分間とっていますので、この間は教室から出たらいけません。昼食の時間は実際に食べる時間を15分ぐらい設定しておいて、ごちそうさまをしたら、今も早く食べられないからどうかは全然なくて、ゆっくり食べている子はゆっくり食べています。現実、帰るまで、クラブが始まるまでの時間が20分、30分は遅くなると思います。中学校の場合はクラブ活動の時間を確保したいというのもあるので、実際始まったら、それぐらいの時間になるのは仕方がないかなとは思っています。

(鎌田座長) 今石山委員が言ってくださった、仕方がないと思えるかどうかはすごく大事で、そう思えたら、割合前へ進むと思います。

(吉原委員) 質問ですが、他市は、給食時間の30分の間に部活動の昼の練習とかはどうされているのですか。教育委員会で給食時間は部活動を中止としているのかどうかというのが気になります。

(事務局) そこは聞いていないので、また聞いておきます。

(富永委員) 以前、他市の学校に勤めておりました。自分の勤めていた学校では、給食の時間に部活動の昼の練習はありませんでした。給食の時間は学校全体が給食の時間で、ばらばらではなく、副担も全ての先生が給食時間は給食時間、配膳の最初から最後の片付けまで、学校全体で給食時間を過ごしておりました。

(鎌田座長) それぐらいみんなが同じ方向を向いて頑張るという空気があるほうが、特に最初は安心かなという気がします。

(富永委員) 食べ終わった後に、給食当番の子どもたちがそれを持って運ばないとい

けないので、ある程度同じ時間で、食べ終わったからといって先に遊びに行くとか部活動の昼の練習に行くとかいうことはできず、当番の仕事も全員で終わって、学校全体で昼休みになるという形になっていたと思います。

(鎌田座長) この時程表で、栄養教諭の委員のほうから、こちら辺をもう少し調べてほしいとかいうリクエストやご意見はないですか。

(八竹委員) 調べてほしいというよりは、小学校では、掃除を給食の後にすぐしているということで工夫していたのです。給食の返却に行く人と掃除に行く人ということで、そこをかぶせているので、単純に20分、30分がずれ込むという感じじゃなく、そこで少しショートカットできるというか、今6時間めが終わってから掃除に行っている分を昼休みのところに組み込んでいったら、そんなに大幅にずれ込まないかなと思っています。

(鎌田座長) ちょっと混ざり合うような感じですね。

(八竹委員) でも、ゼロではないというか、絶対下校時間は遅くなるのですけれども、それは仕方がないと思っていただき、全国的に見ても大阪は給食が遅れていると言われていて、ほかの県ではもう何十年も前から中学校給食をしているので、きっとモデルの時程もあると思います。今はこれが常識ですが、その時程に変えていったら、そっちが常識になっていくわけなので、慣れればいけるかなと思っています。

(石山委員) 実際、今見ていただいたら、給食当番の子たちはその時間帯は掃除できないのですが、今勤務している学校はたまたま放課後の班清掃なので、給食当番の子らと掃除当番をうまく連動させれば一緒にできるというイメージで思いました。

(鎌田座長) ほか、よろしいですか——。それでは、時間のほうは大体いいぐらいの時間になってきましたので、協議3のほうは、事務局からの説明をいただいて、次回議論をするということで、事務局、よろしいですか。

(事務局) はい。

(鎌田座長) それでは、説明をお願いしたいと思います。

### ③ 小中一貫した食育の推進について

【資料3を基に事務局が説明】

(鎌田座長)      ありがとうございます。そういうテーマですので、今日1つめにお話ししていただきました食に関する指導のことについても、今日の議論を踏まえて、また思われたご意見、良い提案、対策等ありましたら、次回も、小中一貫の食育の推進の話をしながらかこの話をしてもらえたらありがたいと思います。何せ日本一安心安全な堺の中学校給食ということですから、センターも日本一じゃないといけない、食育も日本一ということですが、給食当番活動も給食の時間も子どもたちが胸をはって日本一だと言えるようにできたらと思います。そういう意味で、引き続き様々なご意見をそれぞれのお立場からいただけたらと願っております。どうぞよろしくお願いいいたします。

それでは、事務局のほうに進行をお返しします。

### 3. 事務連絡

【事務局より、第7回めの中学校給食検討懇話会の開催日時や場所は追って連絡。】

### 4. 閉会